

福島第一原子力発電所

陸側遮水壁におけるブライントank水位低下について

< 参 考 資 料 >
2 0 2 2 年 1 月 1 7 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2022年1月16日午前5時頃、水処理当直員が定時データ採取時（1日1回）に陸側遮水壁のブライン（冷媒）タンク水位を確認したところ、陸側遮水壁のブライントank 2基において、1月15日に比べて水位が低下していることを確認しました。
- タンク水位データを確認したところ、1月16日午前2時30分頃より、1cm程度／時間でタンク水位が下降していることを確認しました。
- ブライン流量データより、ブライン漏えいの可能性が高い場所は2・3号機間の山側に位置する5BLK-H6エリアと判断し、津波注意警報発令による現場出向一部解除を受けて、同日午前10時頃に現場確認を行ったところ、5BLK-H6エリア周辺に、ブラインと思われる水溜まり※1を確認しました。
※1 ブラインは30%塩化カルシウム水溶液で、危険物・有害物質・汚染物でない（環境への影響はありません）
- 同日午前11時頃、5BLK-H6エリアの2つのバルブを操作して凍結管を隔離しました※2。その後、液位監視を継続しましたが、隔離操作以降においてタンク水位の低下がみられないことから、同日午後2時30分頃、水位低下が停止したものと判断しました。
※2 5BLK-H6エリアを除く箇所ではブライン供給を継続。
- 5BLK-H6エリアは、ブラインの隔離を行っていますが、現時点で陸側遮水壁の測温管3箇所は全て約-10℃程度であり、直ちに陸側遮水壁に影響はないと評価しています。
- 引き続き、地中温度を監視しつつ、5BLK-H6エリアの凍結管等の調査を行い、損傷箇所の特定と補修を行います。

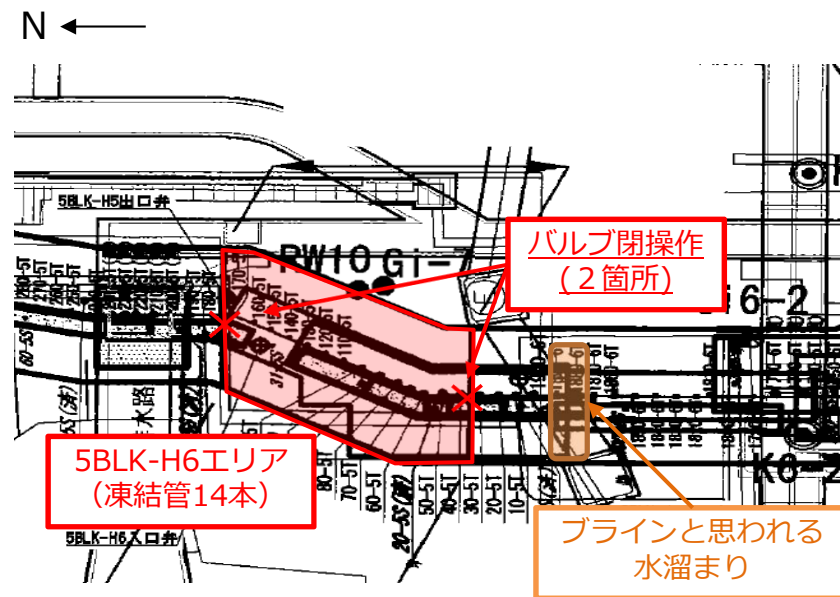
ブラインの確認箇所

- 現場確認により5BLK-H6周辺にブラインと思われる水溜まりを発見。
- バルブの閉操作場所と離れているが、5BLK-H6エリアに含まれる凍結管から漏えいしたブラインが水みちとなって移動したものと推定。



位置図

5BLK-H6エリア



詳細図



凍土設備
ブライン配管

ブライン漏えい状況